道中風俗図屏風（右隻）

推定場面解説

六曲一双
江戸時代（一九世紀）
一五六・八×三六二・九cm
米沢市上杉博物館所蔵

◆凡例

・「伊勢参宮名所図会」（寛政九年刊）の掲載順を参考に場面を推定し、掲載順に①～⑱の番号を付した。

・①～⑱の順にみると京都から伊勢への道中をたどることができる。但し、⑭～⑱は参詣時の順路としては不自然な点がある。

・名所図会挿絵との類似度を、場所の名称の後ろに次の通り略記した。

○全体の構図や配置がきわめて類似する。

△構図や場面に類似点がある。

×挿絵には確認できない。

（場所の推定に誤りのある可能性がある）。

①京都（京都府京都市）△
手前に三条大橋と四条大橋、奥には清水寺や八坂の塔など。

②京都市街（京都府京都市）△
大店が並び、薪を頭に載せた大原女や、公家らしき人物が道を歩く。

③大津宿（滋賀県大津市）○
奈良に続く街道と東海道の分かれ道に高札場があった。大津絵を売る店も見える。

④走井（滋賀県大津市）○
湧き出る井戸水と美しい庭園が有名な餅屋があった。山手の右側の御堂は笹野薬師を、左側の建物は小野小町一〇〇歳の像を祀る。

⑤草津宿（滋賀県草津市）○
本陣に大名行列が到着した場面。右には名物「姥が餅」の店。

⑥草津追分（滋賀県草津市）×
東海道と中山道の分かれ道。※道標の「是より北」の下の文字が旅人で隠れているが、中山道であろう。

⑦夏見の里（滋賀県湖南市）○
湧水を利用した名物・心太の店先。見事な藤棚の下では旅人が一息ついている。

⑧土山宿（滋賀県甲賀市）△
傘、蓑、雨具を用いており、雨降りの様子。鈴鹿馬子唄に「間の土山　雨が降る」と歌われた土山であろう。

⑨坂下宿（三重県亀山市）○
宿所に到着し、荷物を下ろす大名行列。難所である鈴鹿峠を越えた位置で、参勤交代時に宿泊する大名が多かった。

道中風俗図屏風（左隻）
推定場面解説

六曲一双
江戸時代（一九世紀）
一五六・八×三六二・九㎝
米沢市上杉博物館所蔵

◆凡例は、右隻（裏面）を参照。

⑩関 追分（三重県亀山市）〇
分かれ道で、東海道を進む大名行列に対し、伊勢参宮の人々は※鳥居をくぐる。

⑪桑名（三重県桑名市）〇
桑名城の櫓と、熱田（愛知県名古屋市）への渡船場である七里の渡し。

⑫富田（三重県四日市市）〇
名物の焼きはまぐりを食す姿と、「しぐれたき」の看板を出す店で、はまぐりの佃煮を買い求める人々。

⑬津宿（三重県津市）〇
伊勢街道と伊勢別街道の分かれ道。場面右下の石垣は名所図会にも描かれる。場面右上の※常夜灯は現存する。

⑭末社順拝（三重県伊勢市）〇
伊勢神宮には正宮である内宮・外宮の他、二〇〇以上の末社・摂社があった。

⑮間の山（三重県伊勢市）〇
内宮と外宮の間にあった山。物乞いをして、三味線をひく女芸人や、太鼓にあわせ踊る子ども。

⑯（古市）（三重県伊勢市）×
遊郭の前で、格子越しに遊女を選ぶ男たち。⑰につながるとすれば、古市だろうか。

⑰古市（三重県伊勢市）〇
内宮・外宮の間に位置し、精進落としのため遊郭が多い。遊女による伊勢音頭総踊りの場面。

⑱宇治橋（三重県伊勢市）〇
内宮に至る五十鈴川にかかる橋。参拝者は橋の上から網に銭を投げ入れ、代わりに水に入り身を清めてもらう代垢離の習俗。

＊以下、特に順序未定。

米沢市上杉博物館
コレクション展「米沢藩　武士のお仕事」
会期　二〇二〇年一月一一日（土）
～三月二二日（日）
※本資料の展示は二月一六日（日）まで。